

【第3種郵便物認可】

大アムシャレ伝説後世へ

与路島

史跡の環境整備完了し式典

瀬戸内町の与路島に伝わる大アムシャレ伝説。島民でも知る人が少ないというこの伝説を語る史跡の環境整備が今年完了し、14日に与路観光商工協会・築勝水会が主催の式典が行われた。法要には関係者約20人が参加。島の発展と世界平和、島民の健康を祈り、心静かに石碑に手を合わせた。

先人への感謝と平和願う場に

島の港から徒歩5分の場所に、来月5日「ターセンタ」がオープンする。この施設の裏手の急斜面を登った丘に、「大アムシャレの墓」が存在すること、土地を所有するGRTインターナショナル・資産保有会社CICASA（大田麻紀子



与路の先人たちの偉業を語り継ぐ「大アムシャレ津止家太祖父と与路島先人之墓」14日、瀬戸内町の与路島



集落説明会に参加した関係者＝14日、瀬戸内町の与路島

代表取締役）が知り、今年1月から本格的に整備を始めた。1968年発行の「与路島誌」によると、この昔に、大アムシャレとは、琉球王國統治時代の参政上最上位の神女（フ）を補佐した要職のことで、津止家（与路島）の先祖にたると、伝説は、大アムシャレが姫を伴って首里城の王府を訪れ、際に起こった出来事に基く。

王は姫の美しさに目を奪われ、王の妻女にしたいと望んだ。大アムシャレは姫の両親の許なくそのまゝなことをしないと固く断り退出を申し出たが、聞き入れられず、姫は出された。茶を飲み過ぎた。大アムシャレは急いで下城府のこき手を集めて与路を目指したが、与路の集落が見えてきた時、姫のいきからを抱いて入水自殺を図ったという。

古仁屋与路会が2008年に設置した大アムシャレの石碑の碑文には、「与路の村人は深い悲しみの中で海岸から大石（サン）を半渡して運び、この地にノ口墓を建て葬った」と記されている。

大アムシャレの墓がある場所には、島民から「アフリヤ」と呼ばれていた。と「与路先人之墓」の文字を加え、古仁屋与路会が設置した石碑の碑文を要約・加筆したプレート

を台座に貼付。関係者代表、名瀬在住与路友会の喜入博一会長があいさつした。来島した津止克明さんは「20年ほど前にアフリヤを訪れたときには雑草も茂り荒れていたのに、関係者のおかげで整備され、喉の奥の骨が取れた思い」と胸をなで下ろし、今回、樹さんが島唄「朝顔節」を披露。集落説明会では与路観光商工協会の会長、与路集落の信島豊武区長、古仁屋与路会の島唄房会長、名瀬在住与路友会の

喜入博一会長があいさつした。来島した津止克明さんは「20年ほど前にアフリヤを訪れたときには雑草も茂り荒れていたのに、関係者のおかげで整備され、喉の奥の骨が取れた思い」と胸をなで下ろし、今回、樹さんが島唄「朝顔節」を披露。集落説明会では与路観光商工協会の会長、与路集落の信島豊武区長、古仁屋与路会の島唄房会長、名瀬在住与路友会の